

第六期 講演会・活動報告会・令和元年度通常総会開催

REF第六期講演会・活動報告会・令和元年度通常総会が七月六日(土)に織協ビルで開催された。当日は宮本副理事長からの挨拶の後、大同大学の嶋田喜昭氏による『生活道路における通過交通対策の事例』というタイトルでの講演会が行われた。愛知県稲沢市下津地区と愛知県扶桑町山名小学校付近で行われた、ランプ、狭さくの導入・設置効果に関する実証的研究事例を紹介いただいた。

講演会の後は一旦休憩を挟み、活動報告会が行われた。窪田吉倫氏による司会のもと、加藤理事長の挨拶の後、各分科会が研究発表及び講評を行い、酒井俊雄氏による総評が行われた。総会では、まず議長長の選出(吉村朋矩氏)および、議事録署名名人の選出(中村毅氏・林快宗氏)が行われ、議事に移った。第六期(通算第三十九期)活動報告および決算報告、役員改選、第七期活動計画および予算案などが諮られ、原案通り議決された。最後に新入会員等の異動報告があった。

加藤理事長による挨拶



嶋田喜昭氏による講演



その後会場を移し、交流会が開かれた。和やかな雰囲気の中、交流会は進み、会員相互の交流を深めた後、閉会した。



議長を務める吉村氏



交流会の雰囲気

第七期役員(敬称略)

(任期 令和元年八月一日〜令和二年七月三十一日)

理事

理事長・研究分科会 加藤 哲男 名古屋産業大学名誉教授
副理事長・現地調査 宮本 好昭 デルタコンサルタンツ
財務・談話会・講演会 酒井 俊雄 県丹南土木鯖江丹生

監事

総務・広報 川本 義海 福井大学
現地調査 竹内 成和 土木部

幹事

木村 晃規 県港湾空港課
脇本 幹雄 佐幸測量設計

談話会・講演会

酒井 俊雄 理事兼務
西谷 光史 デルタコンサルタンツ

総務

山内 崇史 県道路保全課
田辺 毅 県福井土木事務所

財務

清水 健 県三国土木事務所

研究分科会部門幹事

(交通) 西谷 光史 デルタコンサルタンツ
(地象) 小林 孝彰 県新幹線建設推進課
(水) 斉藤 重人 県下水道公社
(県境道路) 橋本 拓己 東京コンサルタンツ
(道路交通安全) 嶋田 喜昭 大同大学

支援幹事

藤井 浩都 福井大学大学院

令和元年度 活動予算書(案)

科目	内容	金額	備考
1 経費	1 基本経費	852,000	
	2 経費	50,000	902,000
	3 経費	0	0
	4 経費	0	0
	5 経費	0	0
	6 経費	0	0
	7 経費	0	0
	8 経費	0	0
	9 経費	0	0
	10 経費	0	0
2 収入	1 収入	0	
	2 収入	0	
	3 収入	0	
	4 収入	0	
	5 収入	0	
	6 収入	0	
	7 収入	0	
	8 収入	0	
	9 収入	0	
	10 収入	0	
合計		852,000	852,000

第七期(通算第三十九期) 予算(令和元年六月一日〜令和二年五月三十一日)

平成30年度 活動決算書(案)

科目	内容	金額	備考
1 経費	1 基本経費	780,000	
	2 経費	30,000	810,000
	3 経費	0	0
	4 経費	0	0
	5 経費	0	0
	6 経費	0	0
	7 経費	0	0
	8 経費	0	0
	9 経費	0	0
	10 経費	0	0
2 収入	1 収入	0	
	2 収入	0	
	3 収入	0	
	4 収入	0	
	5 収入	0	
	6 収入	0	
	7 収入	0	
	8 収入	0	
	9 収入	0	
	10 収入	0	
合計		780,000	780,000

第六期(通算第三十八期) 決算(平成三十年六月一日〜令和元年五月三十一日)

【分科会報告会】

総会に先立ち、第六期の分科会活動報告が開催された。以下に簡単な研究の要旨と議論された内容について掲載する。

【交通分科会】

「歩行者・自転車を取り巻く環境に関する研究（その3）」

発表者：吉村 朋矩氏
質疑者：山岸 理恵氏

二〇一五年の国連サミットで「SDGsアクションプラン二〇一八」が公表され、「SDGsモデル」を特色づける三つの大きな柱の一つとして「SDGsを原動力にした地方創生、強靱で環境に優しい魅力的なまちづくり」が挙げられている。また二〇一六年六月には、国が初めて自転車施策の内容を公式に取りまとめた自転車活用推進計画が閣議決定されている。第六期交通分科会では歩行者や自転車、公共交通、自動車と共存できる都市空間の創出を目指して、①歩行空間や自転車の利用環境、②シェアサイクルの運営方法や、買い物等での日常利用・観光目的での利用の促進、③歩行者や自転車の交通安全に関して、現地調査及び資料・文献調査によって探った。

現地調査として福井県立藤島高等学校の協力のもと「無信号交差点での歩行者や自転車の安全性に関する調査」を行った。高等学校正門前の交差点でビデオ観測による調査を行い、歩行者や自転車が当該横断歩道を横断しようとした際の自動車の一時停止状況及び交通量を調査した。歩行者等の横断時の車両数一七六台の内、一時停止した車両数は二二台（一二・五％）であるなど歩行者が安全に横断できる環境ではないことが分かった。

交通分科会発表を行う吉村氏、
講評を行う山岸氏



【地象分科会】

「福井の地名から学ぶ防災・減災について」

～水落（鯖江編）～

発表者：龍崎 俊和氏
質疑者：林 快宗氏

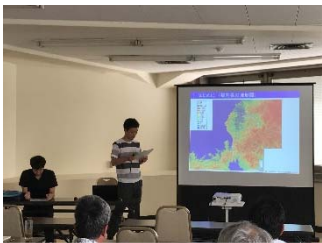
大雨等の防災・減災を考えるにあたって、気象と並ぶ重要な要素として地形があげられる。そのような地形を読み解くにあたって、切り離せないものが、地名である。地名はその地域が過去にどのような地形であったのか、どのような災害が起こり得るのかといったことを把握するのに有用な要素だといえる。

第六期は鯖江市水落を調査した。水落町には東西に地盤高低差があり、水落という地名に注目すると高低差のある西側から東側へと水が流れていったものと考えられる。しかし現地調査や地図からは西側から東側に向かって流れる河川の類は確認できず、その水源については、崖に生じる湧水がこの地名の由来だと考えられる。これは福井から鯖江に至る鯖江断層に起因しているもので、豊富な遊水地の一帯であると言える。

鯖江市周辺を地形・地質図から見ると、鯖江台地の縁辺に直線的な段丘崖が連続しており、東西両側に活断層が存在しているものと考えられる。一方、鯖江の南側には日野川を起源とする扇状地が広がっており、鯖江駅周辺はその扇付近に位置しているため、鯖江の南半分には標高二十mの微高地が広がっている。鯖江の南半分には扇状地末端に特有の湧水地が点在し、また北半分でも断層に沿って水に関する地名が並んでいる。



地象分科会発表を行う龍崎氏、
講評を行う林氏



水分会発表を行う嶋田氏、
講評を行う西谷氏

【水文科会】

「丹南の豊かな湧水」

発表者：嶋田 良和氏
質疑者：西谷 光史氏

面積の約七割が森林原野であり豪雪地帯である福井県は、その豊かな山にたつぷりの水を蓄えており、やがて山々からその谷間を流れて川となり平野に流れていく。このため、山々に囲まれた扇状地や盆地は、いわば巨大な水瓶となつて県内あちこちで多くの伏流水が湧き出しており、こうした水の豊かさが「福井」という名の語源とも言われている。今回の水文科会では、そんな越前市を中心とした丹南地域にスポットを当てて、その歴史を調査することとした。

現地調査する湧水は福井県が「ふくいのおいしい水」として認定している箇所を基本として、①石神の湧水、②解雷ヶ清水、③お清水不動尊の水、④皇子が池の水、⑤瓜割清水、⑥治左川井戸、⑦鶯清水、の7か所を選出し、現地に足を運んだ。調査の中でそれぞれの名水の歴史と、水道の整備が進んだ今もなお大切に管理されながら湧水が地域の人々に利用されていることが確認できた。湧水は地域住民の生活や文化、生態系とも深い関わりを持つかけがえのない資源であり、今回調査したいずれの箇所にもお地蔵様や鳥居、不動明王などが祀られてあった。

このような水資源を後世に残していくために取り組まれている保全・復活活動についても調査したところ、県内では、大野市、小浜市が地下水の保全に積極的に取り組んでいることが分かった。また県外の事例紹介として、琵琶湖北西岸に位置する針江集落では、一〇～二〇m打ち込んだ鉄管から自噴する湧水を家中に回して生活用水として用いている「カバタ（川端）」というシステムと保全活動が行われている。県内事例が地下水を観光資源として扱いつつながら保全活動を行っているのに対して、あくまで生活の場であると考える保全活動を行っているのが特徴的である。

【県境道路分科会】

発表者：橋本 拓己氏
 質疑者：窪田 吉倫氏
 「県境地域における地域活動事例調査について」

今期の現地調査は、国道四一七号大日峠道路の整備状況と勝山市小原地区の「小原ECOプロジェクト」の代表の國吉一實さんに活動状況についてお話を伺った。國吉さんたちは、とにかくお金をかけないで古民家再生やコミュニティの維持、登山道の整備等多様な活動に、福井工業大学の学生達や国際ボランティアとして来た外国人の方と共に取り組んでいる。國吉さん達は色々と工夫をしながらボランティアの方々と楽しんで汗を流しているようである。インバウンドに関しての各種統計数値を見ると、福井県はほとんど全国最下位あるいはそれに近い順位に甘んじているが、勝山市北谷町小原地区の事例は、今後の福井県におけるインバウンドの受け入れに対する一つの答えになっているように思える。

またこの他にも県境部における公共交通の実態調査の試みとして、県境を越えるバス路線の抽出をGIS国土数値情報バスルートという公開データを利用して行った。福井県から他県に跨るバス路線は高速バスの他に、滋賀福井間、京都福井間を結ぶ路線が存在することが分かった。福井県あわら市と石川県加賀市にはそれぞれ県境付近にバス路線が存在していたが、県境をまたいでる路線は見られなかった。また今回利用したデータが平成23年のものであり、これ以降の更新がなされていないことから、国土交通省から提供されるデータだけで分析を行うには課題があることが分かった。

県境道路分科会発表を行う橋本氏、講評を行う窪田氏



【交通安全分科会】

発表者：嶋田 喜昭氏
 質疑者：藤井 浩都氏
 「自動運転社会に向けた課題
 ～実証実験資料の分析を通じて～」

わが国が自動運転関連の施策に本格的に力を入れ始めたのは2014年であり自動運転の重要課題の一つに位置付けた「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」が策定された。SIP策定以降全国各地で実証実験が行われ、調査結果等も公開され始めてきている。そこで今年度の分科会では、主として実証実験結果報告の状況を把握し、道路交通システムにおける課題等を検討した。

高齢化が進行する中山間地域においては、人流・物流を確保するため道の駅を拠点とした自動運転サービスの社会実験が行われている。実証実験は技術検証として行う地域とビジネスモデルの検討を主として行う地域に分けて実施され、二〇二〇年以降を見据えた全国展開に向けた取り組みについて全体的な取りまとめが行われている。道の駅を拠点とした実証実験の他にも石川県輪島市、沖縄県北谷町、福井県輪島市などで行われた、基幹交通システムと自宅等を結ぶラストマイル自動運転や自治体、民間、大学が主導する自動運転の実証実験の取り組みも行われた。

収集した実証実験資料を俯瞰し、自動運転社会の実現に向けては、技術的課題、運行上の課題、受容性における課題等、まだ多くの課題が残されていることが分かった。



交通安全分科会発表を行う嶋田氏、講評を行う藤井氏



総評を行う酒井氏

★入退会のお知らせ★ (敬称略)

- 《入会》
 正会員 浅野 周平
 賛助会員 藤井 浩都 (学生会員)
 樊 尚育 (学生会員)
 張 然 (学生会員)
 《退会》
 南 克昌 (正会員)
 窪田吉倫 (正会員)
 令和元年七月六日時点

【会費の納入について】

- 会費の納入をお願いします。
 ■年会費
 正会員 … 一、〇〇〇円
 賛助会員 … 三、〇〇〇円
 ■会費納入先

《振込みの場合》
 ゆうちょ銀行
 振替口座 七三〇・三・二〇三九六
 福井地域環境研究会
 ※機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》

総会、中間報告会、談話会等開催時、または、左記、財務幹事まで直接お支払いください。

【財務幹事】

〒九一三・八五一一
 福井県坂井市三国町水居一七・四五
 福井県三国土木事務所
 清水 健
 TEL 〇七七六―八二―二二三三
 Mail t-shimizu-j3@pref.fukui.lg.jp